



新座三中だより

学校教育目標

自ら学ぶ 心豊かに たくましく

新座市立第三中学校

令和5年2月1日

新座市池田1-1-1

TEL 048-479-4052

FAX 048-482-0133



新しい金魚

教頭 恩田 信久

新しい年が明け、「行く」1月が過ぎ、「逃げる」2月に入り、「去る」3月で卒業・進級となります。入学・進級当時や、大会が終わった直後に「よし！やるぞ！」と思っていた新鮮な気持ち。今も新鮮ですか？自分の夢や目標があっても「どうせムリじゃないのか？」と思い始めていませんか？

こんなお話があります。

水槽に、金魚がたくさん泳いでいます。ある日、エサを水槽の片側の端にまきます。

すると金魚は、水槽の端から端に一直線に移動し、先を争ってエサを食べます。

しばらくしたある日、今度は、水槽の半分の位置を透明のアクリル板で仕切って、金魚を片側に集め、逆側に行けないようにします。

ちょっと意地悪ですが、金魚と反対側にエサをまきます。中にいる金魚たちはアクリル板の向こう側にまかれたエサを食べようとしますが、仕切り板にぶつかってしまいます。

何度挑戦しても板にぶつかる。しばらくぶつかった後、もうエサを食べられないことがわかると、金魚は「ムリだ、もう食べられないや」とあきらめ、やがて仕切り板の向こう側にまかれるエサには見向きもしなくなります。

さらにしばらくした後、仕切り板を取り除いて自由に反対側に行けるようにします。

ところが、同じ場所にエサをまいても、金魚は向こう側のエサを食べに行きません。

「何度挑戦しても、どうせムリだ」という「学習」から得た“常識”にとらわれているのです。

しかし、そのやる気のなくなった金魚たちがすべて、一瞬で反対側のエサを食べに行く方法があります。それは…!!

「新しい金魚を1匹入れる」のです。

新しい金魚は、透明な仕切り板のことを知りません。エサを見るなり、一直線に食べに行きます。

それを見た他の金魚たちは、「なんだ！食べに行けるじゃないか！」とばかりに、どうせ行けないと思い込んでいたはずの反対側に一直線に突入していきます。

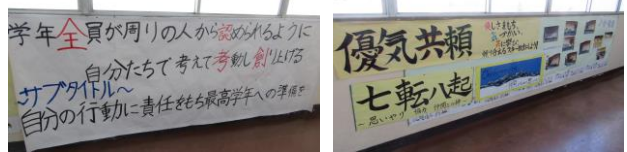
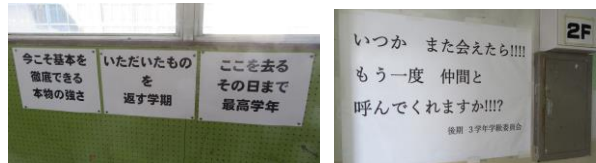
君たちは、「新しい金魚」になりますか？

それとも、エサを食べられる状況なのに、「どうせムリ」と食べに行こうとしない金魚になりますか？

自分の夢と現在の自分との間には、透明な仕切り板があるんだと、勝手に思い込んでいませんか？

かつて人類は100mを10秒を切って走れないといわれてきました。しかし、最初の1人が10秒を切ったら短期間であつという間に一気に10数人が10秒を切ってきたそうです。これは、急に力のある選手がたくさん出てきたのではなく、「ムリだ」という「心の壁」が取り払われたからです。誰かが壁を最初に破ると、今まで「絶対ムリだ、できない」と信じられてきた“常識”を多くの人が打ち破れるのです。新しい金魚になって“常識の超えられない高い壁”を壊して前に進めればいいのです。

実際には、壁はない。あるのは心の壁だけです。



2月1日現在、三送会まで登校20日。卒業式まで29日、修了式まで35日です。各学年の廊下には、1年間のまとめに向かう力強い言葉が掲示されています。残りの日数は「逃げる」「去る」ように減っていきませんが、桜が咲き4月になれば再び新しい出会いと環境がやってきて、新たな目標を立てるでしょう。

自分の目標が高く難しいものであったとしても、「どうせムリ」という後付けされた“常識”にとらわれず、毎日新しい金魚のような気持ちでチャレンジ、リトライすることです。三中が研究する「学びの共同体」も同じです。常に新しい取組をし、学び合いを活性化することでさらなる可能性を追求していく。何かをめざすとき、「どうせムリ」はNGワードなのです。

様々な経験や体験を通して学ぶ「百聞は一見に如かず」の通り、一つの経験や体験は人を大きく成長させてくれます。失敗を恐れず、何度も粘り強く取り組む、やり続ける、やり切る力を付けて欲しいと願います。

2月に入りました。3年生は進学先が決まった人もいますが、公立の試験に挑む人の方が多い。その人たちの心境は…、安定しているとは言いがたいでしょう。不安やプレッシャーを抱えながら、最後の追い込みをかけています。「自分だけじゃない、友だちも」ということを支えに机に向かっていくのだと思います。そんなとき安心できる場所、それが家庭なのだと思います。がんばれ三中生、一つ一つ確実に！ 校長 和久井 功雄

～ 経験や体験から学ぶ、価値ある失敗を大切に<リトライ> ～